



この事業は、日本財団の支援により実施しています。



アスリート先生 学校派遣事業
Challengers Academy
実施レポート

港区立赤坂中学校
2022年12月22日（木）



赤坂スポーツクラブ 運営事務局
一般社団法人FELICEスポーツクラブ

チャレンジャーズアカデミー 実施にあたって

IMD(国際経営開発研究所)が発表した「世界競争力年鑑2022」によると、ビジネス分野における近年の日本の『世界競争力』は大幅に落ちており、今後、日本ではグローバル社会で活躍できる人材の育成が急務であるといえます。

そこで、海外を経験したアスリートが、日本の未来を担う子どもたちへ自身の経験や想いを子どもたちに伝えることで、夢やチャレンジ精神をもつことの大切さを知ってもらい、国際社会での活躍を意識してもらえるよう、アスリート先生による学校授業プログラム「チャレンジャーズアカデミー」を立ち上げました。

いくつもの困難を乗り越え、自身の夢や目標に向かい、世界を舞台に挑戦してきたアスリートたち「チャレンジャーズ」のこぼれ話や経験は、子どもたちに気づきをもたらし、勇気を与える力があると信じています。

同時に、学校教諭の指導力向上や働き方改革の一助となること、また、アスリート達の社会貢献の場となり、セカンドキャリア支援となる仕組みを生み出すことを目指します。

平成29年3月公示の新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質や能力を子供たちに育むために、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業の工夫や改善が求められています。

「チャレンジャーズアカデミー」での“触れ合いによる学び”が、今後生徒の皆さんが国際社会に出てグローバルな歩みを進めていく中で活かせる資質や能力を育むとともに、運動やスポーツが好きになり、生涯にわたり豊かなスポーツライフを送り健康的な人生を送るきっかけとなることを期待しています。

1. 実施概要（2022年度）

【事業名】 チャレンジャーズアカデミー

【主催】 一般社団法人FELICEスポーツクラブ

【支援】 公益財団法人日本財団

【日程】 2022年12月22日(木)、2023年2月27日(月) 2日間

【実施校】 東京都港区立赤坂中学校(東京都港区赤坂9-2-3)

【目的】 海外を経験したことのある元アスリート＝「チャレンジャー先生」が教師役となり運動と講義の授業を実施し、子どもたちへアスリート自身が海外に出たきっかけや、どのように語学やコミュニケーション能力を身に付けたのか、また海外で遭遇した困難をどう乗り越えたかなど、自身の経験を伝えることで、子どもたちが国際感覚を養い、将来世界を舞台に活躍することを意識するきっかけをつくります。

【チャレンジャー先生】 松原良香先生（サッカー）
中川賀之先生（サッカー）

【実施クラス】 1年生(2クラス) 44名
2年生(1クラス) 42名
3年生(1クラス) 17名 合計：103名（4クラス）
※対象学年、クラスは学校からの希望を受け決定

【実施方法】 運動と講義の2コマ1セットの授業を、クラス単位で実施

- 運動の時間 チャレンジャー先生自身の競技・トレーニングを実践し、その競技に親しむとともに、スポーツの楽しさを知ってもらいます。
- 講義の時間 目標を達成させるためにしたこと、海外での困難にどう乗り越えたかなど、先生自身の経験や想いを伝え、生徒に国際社会で活動することについて考えてもらいます。
- アンケート・フィードバック 受講生にアンケートを回答してもらい、授業の効果を測定します。先生への質問や生徒へのアドバイスがあればフィードバックします。記念写真シートを受講生全員へ贈呈します。

2. 授業構成（運動の時間） ※50分

①自己紹介～授業の目的を確認（5分）

- ・自己紹介(名前、競技歴、今の活動など)
- ・今日の授業の目的を伝える



②準備運動（10分）

- ・ウォーミングアップ、ストレッチ、体操など実施
- ※自身の競技の特性を活かしたウォーミングアップを行う
- ※怪我予防のため、動きの効能・目的を伝える



③主運動（30分）

- ・目標に向かって仲間と協力し合い努力すること、その達成感とスポーツの楽しさを感じてもらえるよう、効果的に声かけをする
- ※目標設定と作戦会議の時間を設ける



④まとめ（5分）

- ・子どもたちが良く考えたこと、努力をした点を評価する
- ・次の授業は教室のため、移動を促す



⑤挨拶・着替え（休み時間10分間）

※授業の最初や最後

- アスリート先生による競技のパフォーマンスを披露
- ⇒子どもたちに、世界で戦ったアスリートの凄さを知ってもらう



3. 授業構成（講義の時間） ※50分

① 自己紹介・自身の国際経験の話（30分）

自己紹介

- ・選手時代の写真やスライド、VTR映像があれば、用いて自己紹介
- ・簡単なプロフィールを配布または黒板に掲示
- ・現役時代にプレーした国、遠征で滞在した国の情報



国際経験の話

以下のテーマのうち**最低2つ**を入れて話します。

- ◆ 海外に出たきっかけ、現地でどのようにコミュニケーションをとれるようになったのか
- ◆ 海外で遭遇した困難とは？それをどう乗り越えたか？
- ◆ 日本と海外の違い、海外でびっくりしたこと
- ◆ 海外を経験してよかったこと、どのような強みができたか
- ◆ 海外に出て感じた日本の良いところ、もっとこうの方が良いと思うところ

② グループワーク・発表（10分）

①で先生の話聞いたうえで、子どもたちが感じたことを話し合い、国際社会に出ること、語学の習得、将来の目標など、自身のことにあてはめ考えられるように気づきを与えることを目的とします。



グループに分かれ、それぞれ感じたことを出し合う(5分)

↓
各グループの代表者が話し合ったことをまとめ発表(5分)



③ 授業のまとめ（5分）

各グループの発表を受け、チャレンジャー先生が生徒へのメッセージ、アドバイスなど、この授業で一番伝えたかったことを最後に伝えます。



④ 記念撮影（5分）

4.授業レポート① 1年A組 運動(50分)

【日程】2022年12月22日(木)

【チャレンジャー先生】松原 良香 先生(アトランタ五輪サッカー日本代表)

自己紹介・準備運動



先生の自己紹介と授業の目的を共有。前の週まで開催されていたW杯を見た生徒も多く、実際にプレーをすることで、よりサッカーに親しむことを伝えます。



準備運動は、リズムに合わせてステップを踏む「ブラジル体操」を実施。先生の見本を真似て、みんなで楽しみながら身体と心をほぐしました。

主運動 (パス&コントロール、ミニゲーム)



サッカーの基本動作「蹴る・止める」の練習となる対面「パス&コントロール」を実施。足のどの部分にボールを当てるのか、蹴る強さや方向などをレクチャーしました。思うように相手にパスができない生徒もいましたが、サッカー経験のある生徒がアドバイスや声掛けをする場面もあり、クラスみんなで助け合いながら取り組んでいる様子が印象的でした。



運動の授業の最後は、体育館を2面に分けミニゲームを実施。W杯カタール大会で活躍した「アルゼンチン、フランス、モロッコ、日本」として4チームに分かれ対戦。女子生徒のゴールは3点というルールのもと、経験者の男子生徒が積極的に女子にパスを回しゴールを促すなど、チームとして勝つために協力しながらサッカーを楽しみ、盛り上がりました。



4.授業レポート② 1年A組 講義(50分)

【日程】2022年12月22日(木)

【チャレンジャー先生】松原 良香 先生(アトランタ五輪サッカー日本代表)

チャレンジャーズ先生の経歴・海外での挑戦の話



高校卒業後に単身ウルグアイに渡ったこと、そこでのカルチャーショックや日本との生活環境の違いに戸惑ったこと、クロアチアのチームで優勝争いに敗れた際の挫折などあったものの、積極的に周りの選手や監督とコミュニケーションをとることで乗り越えられ、その時の経験がその後の指導者や解説者としてのキャリアにもつながっていることを伝えました。

グループワーク、発表



サッカーや講義の授業を通して、感じたこと、印象に残ったことをグループで話し合い、代表者に発表してもらいました。「言語の壁を乗り越えれば、特技を活かして国関係なく協力することができる」「将来の夢や目標に向かって、好きなことだけでなく必要なことを見極めて取り組むことも大事」など、それぞれ感じたことを話してくれました。



最後に松原先生より、「目標達成に向け諦めない気持ちを持つことの大切さ」「日本人の相手に対するリスペクトの気質は海外でも受け入れられるので、自分にできることを考え国内外問わず何でも挑戦してほしい」と生徒へ伝えました。皆さんがそれぞれに目標を持ち、多くの生徒が海外に出て挑戦することを少しでも意識してくれたことを期待します。

4.授業レポート③ 1年B組 運動(50分)

【日 程】 2022年12月22日(木)

【チャレンジャー先生】 松原 良香 先生(アトランタ五輪サッカー日本代表)

自己紹介・準備運動



最初に、先生の自己紹介(アトランタ五輪サッカー日本代表、いわてグルージャ盛岡監督)と、授業の目的(サッカーを実際にプレーして親しむ)を共有しました。



準備運動の「ブラジル体操」を初めて経験する生徒ばかりでしたが、リズムにのりながら腕を回したり、ステップを踏んだり、恥ずかしがることなく積極的に取り組んでいました。

主運動 (パス&コントロール、ミニゲーム)



対面「パス&コントロール」を実施。松原先生、アシスタントの式田先生のデモンストレーションを合間に入れ、足の向き、足をあてる場所など具体的なアドバイスを受けるうちに、サッカー未経験の生徒でも上達する様子がわかりました。「相手が受けやすいパス」を出し、そのパスが通った時の喜びを感じてくれたことと思います。



最後は体育館を2面に分けてのミニゲームを実施。サッカー経験者、未経験者も関係なく、積極的に練習をしたばかりのパスをつなぎ、チームメイト一丸となりゴールに向かい団結する様子が伝わってきました。最後の順位発表の際も、互いの健闘をたたえ合い、楽しくサッカーができたことに充実した表情の生徒が多く、クラスの結束を感じました。



4.授業レポート④ 1年B組 講義(50分)

【日 程】 2022年12月22日(木)

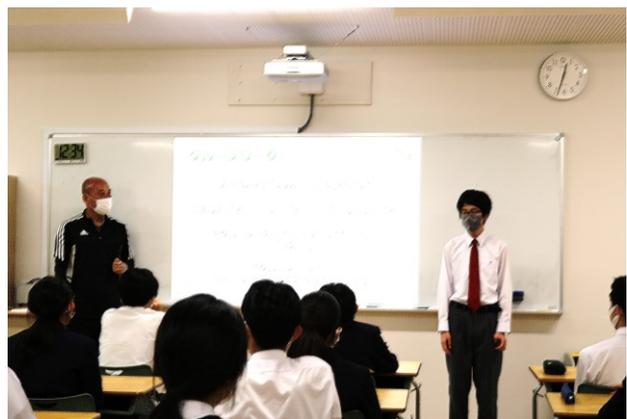
【チャレンジャー先生】 松原 良香 先生(アトランタ五輪サッカー日本代表)

チャレンジャーズ先生の経歴・海外での挑戦の話



高校卒業後に渡ったウルグアイでは驚きの連続であったが、「アトランタ五輪出場」という日本サッカー界の目標を背負い頑張ることができたこと、アトランタ五輪でブラジルを破った後、南米の選手を見習い欧州リーグへの挑戦を続けたことなど、夢をもつことが原動力となり行動したことが、今も多くの国の人たちと交流していることに繋がっています。

グループワーク、発表



サッカーや講義の授業を通して、感じたこと、印象に残ったことをグループで話し合い、代表者に発表してもらいました。「目標をたてそれに向かって努力をすること」、「失敗を恐れず挑戦すること」が大切だという意見が出ました。



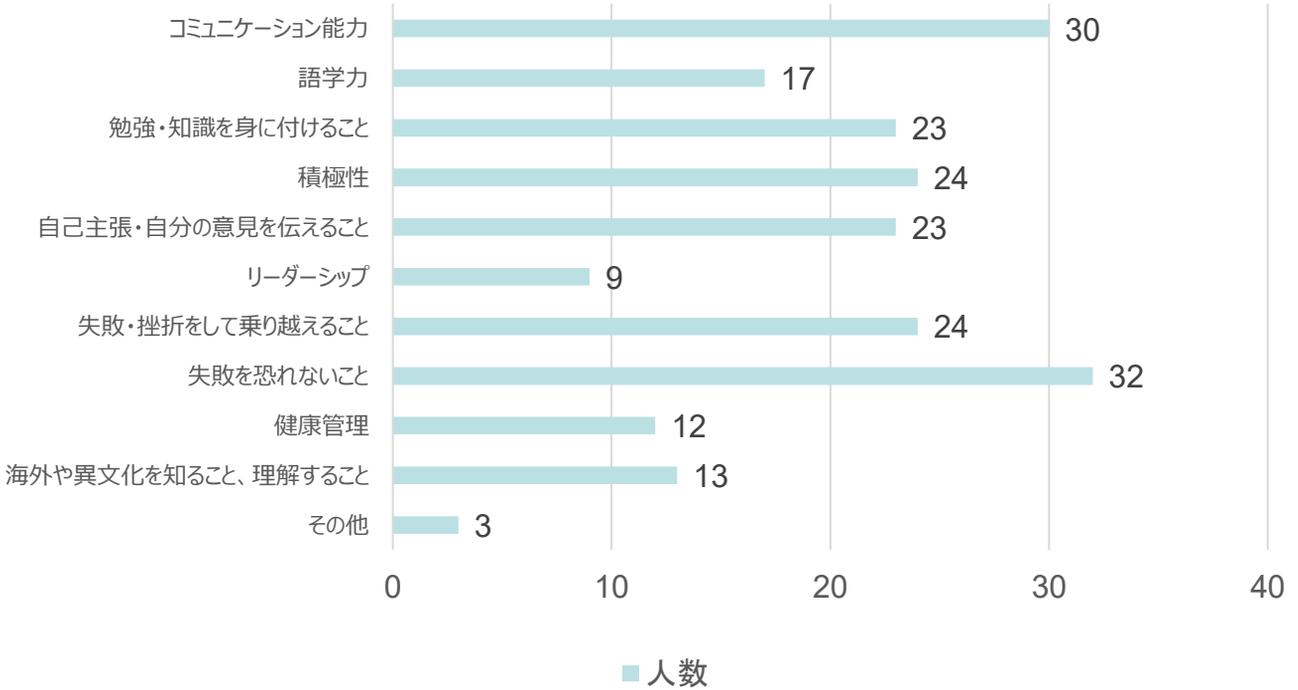
最後に松原先生より、自身が今、サッカーの様々な活動できているのも、周りの人のおかげであり、感謝の気持ちを持つことが一番大切であると話がありました。人から必要とされる人材となるために、自分は何ができるのかを考え、今後の目標を設定し、それに向かって努力をすると必ず道が開ける、と生徒の皆さんに伝えました。

5. 受講者アンケートの結果③

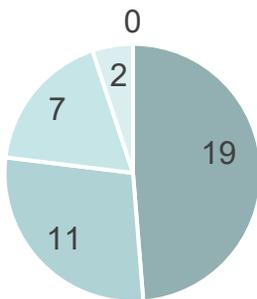
回答者 39名

Q5 本日の授業を受けて、大切だと思ったことは何ですか?(複数回答可) ※必須回答

- コミュニケーション能力
- 語学力
- 勉強・知識を身に付けること
- 積極性
- 自己主張すること・自分の意見を伝えること
- リーダーシップ
- 失敗・挫折をして乗り越えること
- 失敗を恐れないこと
- 健康管理
- 海外や異文化を知ること、理解すること
- その他 []

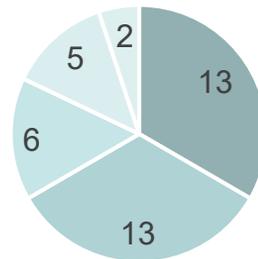


Q6 スポーツは好きですか?



- 好き
- どちらかという好き
- どちらでもない
- どちらかという嫌い
- 嫌い

Q7 英語や外国語の勉強は好きですか?



- 好き
- どちらかという好き
- どちらでもない
- どちらかという嫌い
- 嫌い

5. 受講者アンケートの結果④



回答者 39名

Q8 松原先生へメッセージ（一部抜粋）

今回の授業で、何事も失敗を恐れず、挑戦し続ける大切さを感じました。
貴重な経験をありがとうございました。

二時間という短い時間でしたが、大好きなサッカーをクラスのみんなでできたり、松原先生の講義を聴くことができ、とても有意義な時間を過ごすことができました。本当にありがとうございました

失敗を恐れず、海外へ行ってサッカーの経験を増やすことは普通の人だったらできないことだと思いました！
今回のサッカーの授業とても楽しかったです！

今回のこの講習を受けてサッカーが久しぶりに楽しいなとも思いました。そしてどうやったら自分の目標を達成できるのかというのは自分の気持ち、意志が大事なんだなと思いました。今回の講習ありがとうございました

どのようにしたら異国の国で自分のやりたいことをやる勇気が出るのか気になりました

本日はありがとうございました。
諦めず、ずっと努力し続けられるからこそ成功するんだなと思いました。僕も諦めず挑戦していきたいです

授業わかりやすく楽しかったです。これから自分の目標をしっかり持ち、自分の目標のために努力しようと思いました

この授業をして失敗を恐れないことと、努力をすることがとても大切だなと思いました。
私も努力をしなければいけないと思ったので、もっと努力して、これからたくさん楽しもうと思います。

今回は、サッカーの講義、実技の機会を作っていただきありがとうございました。サッカーは苦手と思っていたけれど、今回試合をしてみて、意外と楽しく仲間とパスを繋げて頑張ることができ、とても楽しめたと、少しサッカーが好きになりました。
本当にありがとうございました

今後辛いことを乗り越えるためには諦めないで粘ることが大切なことや実技を通して仲間と協力して戦うことができました。
プレーをしてみてもすごく難しかったけど楽しかったです。

今回サッカーや講義をしてくださりありがとうございました。サッカーは幼稚園の時少しやっていました。
ボールのコントロールがとても難しかったけれど上手にできるようになるととても嬉しかったです。
またゲームでは仲間と協力してできました。とても楽しかったです。

講義は海外について色々学びました。
私は松原さんの勇気・諦めない心・何事にも挑戦する心などにすごいなと感じ本当にその心は大切だなと思いました。
ありがとうございました。

今回サッカーをやったり講義を受けたりして、サッカーを練習すること以外にも、コミュニケーション能力や失敗を恐れないことなど、大切なことがあるということを知ったので、とてもいい体験をさせていただきました。ありがとうございました

今回サッカーの体験をしたり、講義を聞いてみて、何事にも積極的に取り組んだり、努力することで様々なところでの幅が広がるということを知ることができました。今後は、色々なことに対して、考える時間を増やしたり、理解できるように生活していきたいと感じました。

いろんなことで失敗や挫折することがあったけど、それを活かしてきたのが今があると思うので、今まで頑張ってきたのがわかりました。

この度はありがとうございました。
僕もあなたのように経験を積んでその分得た事を誰かのために尽くしていきたいと具体的なゴールを立てられました。
これからもお仕事頑張ってください。

5. 受講者アンケートの結果④



回答者 39名

Q8 松原先生への質問（一部抜粋）

海外に行ってサッカーに関して日本と1番違かったことはなんですか？

⇒海外では勝利に対する意欲がとても強く、ボールを持つこと、ゴールを奪うことへの意識がかなり強いと感じました。

サッカーを続けていて、サッカーをするのが辛いと思った事はありますか？

⇒何度もあります。

一番つらかったのはドイツにいた時で、オファーはもらっていたし、プレーができる状態にあったので、そのチームでやりたかった。しかし、エージェント同士(自分のエージェントと現地のエージェント)の手数料の交渉が決裂し契約できなくなっていました。プロサッカー選手は自分の思いだけでは契約できません。

どのようにしたら異国の国で自分のやりたいことをやる勇気が出るのか気になりました。

⇒誰かにサッカーをやるように言われたのではなく、自分で決めました。

18歳で1人でウルグアイに行った時、「絶対ここから這い上がっていくんだ」というウルグアイ人の姿を毎日見ました。その環境が良かった。志を持ち覚悟を決め進み、自分がやりたいと思って立てた目標は必ず達成できると思っています。全ては自分次第です。

サッカーの知識についてとても増えたような気がしました。海外での生活を見ていると日本と全然違うなということがわかりました。質問は、なんで日本は設備などがとてもいいのに海外になかなか勝てないのかが気になります。

⇒日本代表だけが頑張っているのではなく、世界も同じスピード、もしくはもっと速いスピードで成長しています。日本は島国で日本語は日本でしか使えず、世界No1スポーツであるサッカーからすると環境的としては成長するのに難しい。ヨーロッパや南米は陸続きで情報が黙っていてもすぐに入ってきます。

コミュニケーションも南米大陸では基本スペイン語でOK。

ヨーロッパでは、最近みな英語が話せるようになってきました。言葉が通じれば何でもできる。

練習試合もすぐに隣の国とできます。

国際経験がサッカーのみならず普段の生活でもできます。

例えば私がいたスイスでは、アウェイゲームはバスで4時間あれば隣国全てに行けました。(フランス、ドイツ、イタリア、オーストリアに囲まれてすぐ行けます) これらの国はみなサッカーが強く、日本とは比べものにならないくらいサッカーの歴史もあります。日本の場合はヨーロッパや南米などのサッカー先進国に行くには飛行機で何時間もかけて行く必要があります。

彼らは日常にサッカーがあるのに対し、日本にはまだありません。このサッカー文化、環境が大きく違うことが、勝てない要因の一つだと思います。

この前は来てくださってありがとうございました。

私はカタールW杯も見て、サッカーを見ることで楽しいと、応援したいと感じていました。

そこで元サッカー選手の方に会えて嬉しかったです。

私の父がメキシコへ留学していて、父に「日本語の他にも英語とスペイン語は覚えたい方が良い。」と言われました。

英語の勉強も最近は積極的にするようになり、楽しいとも感じています。

ですがあまり覚えられなくて苦戦したことが何度かありました。

松原先生はスペイン語などがわからない状態でどうやって現地の方々と交流していたのですか？

これからも語学力を高めるために英語などを勉強したいのでこの質問をしました。

サッカーの大会などがあつたらこれからも日本はもちろん、他国のグループも応援したいと改めてこの前の授業を通して感じました。

⇒言葉は自分が覚えようと必死になれば覚えられます。

僕の場合は試合に出たかったし、勝ちたかったから言葉を覚えました。

例えば、「どうして僕が試合に出られないのか」をコーチに聞いたり、「何が足りないのか」「明日の練習時間」「膝が痛いから氷がほしい」など、サッカーにおける必要なことは自分で聞かなければなりません。

誰も助けてくれない。必死になれば必ず覚えられます。あとは外国人と毎日一緒にいることもよいです。



Supported by
日本財団
THE NIPPON
FOUNDATION

この事業は、日本財団の支援により
実施しています。



LIFE IS A CHALLENGE!!

世界を舞台にチャレンジしよう!!

赤坂スポーツクラブ 運営事務局
一般社団法人FELICEスポーツクラブ